

科目名	生活支援技術・応用 I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	案納／平山／豆田		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	NS(病院)／CW(老健)／CW(病院)		
対象学科・学年	介護福祉科1年						
授業概要	各疾患の医学的理解・心理的理解を基とし、障害の状態に応じた介護支援の展開を行えるようになる。 また、利用者ニーズに対応した具体的な支援方法についても学ぶ。						
授業形式	講義： ○	演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				各疾患・障害の概要と特徴的な症状について説明できる。	
	○	○				各疾患・障害の特有の生活の困難について説明できる。	
	○	○	○			各疾患・障害に応じた生活支援技術の展開方法を選択し、生活支援技術基本の内容を応用できる。	
テキスト・教材 参考図書	最新 介護福祉士養成講座 8. 生活支援技術 I 中央法規 見て覚える！ 介護福祉士国試ナビ2019 中央法規						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	視覚障害／視覚障害の理解、生活上の困りごと(平山)			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)		
	2	視覚障害／視覚障害者体験(平山)			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)		
	3	視覚障害／まとめ(平山)			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)		
	4	聴覚・言語障害／聴覚障害の理解、生活上の困りごと(平山)			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)		
	5	聴覚・言語障害／言語障害の理解、生活上の困りごと(平山)			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)		
	6	聴覚・言語障害／まとめ(平山)			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)		
	7	重複障害／盲ろう重複障害の理解、生活上の困りごと(平山)			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)		
	8	重複障害／まとめ(平山)			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)		
	9	内部障害(膀胱・直腸障害のある人)に応じた介護/医学的理解と心理的理解(案納)			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)		
	10	内部障害(膀胱障害:膀胱がん等)に応じた留置カテーテルでの日常生活の支援・介護について/(案納)			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)		
	11	内部障害(直腸障害:大腸がん等)に応じた日常生活の支援・介護について(案納)			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)		
	12	内部障害(直腸障害のある人)のストーマケアの日常生活支援・介護について(案納)			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)		
	13	高次脳機能障害(豆田)/医学的理解			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)		
	14	高次脳機能障害(豆田)/生活の視点で考える			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)		
15	高次脳機能障害(豆田)/具体的支援の展開			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)			
評価方法	定期試験(筆記)を実施・評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				100%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	介護過程総論						
科目名(英)	General care process						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	平山恵子		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	介護老人保健施設にて介護福祉士として勤務		
対象学科・学年	介護福祉科1年						
授業概要	①介護過程の意義を理解し、生活支援の課題や目標をとらえることができる。 ②他の科目で学習した知識や技術を統合して介護過程を展開することができる。 ③介護計画の立案により、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					介護過程の意義、目的を説明できるようになる	
	○					介護過程の展開を行うことができる。	
	○	△				個々に合った介護過程を展開できるようになる。	
	○					チームアプローチの重要性を認識できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	中央法規「介護過程」 中央法規「見て覚える！介護福祉士国試ナビ」						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	介護過程とは			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	介護過程とは			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	生活支援における介護過程の必要性			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	生活支援における介護過程の必要性			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	介護過程の展開			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	アセスメント(情報収集)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	アセスメント(解釈・関連づけ・統合化)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	介護過程の立案			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	介護の実施			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	評価			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	介護過程の実践的展開			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	「介護過程」展開の実際			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	介護過程とケアマネジメントの関係性			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	チームアプローチにおける介護福祉士の役割			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
15	まとめ、試験対策			定期試験に向け、復習しておくこと			
評価方法	定期試験(筆記)を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				100%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	介護過程各論 I						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	豆田和也・案納賀世子		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	CW(病院)／NS(病院)		
対象学科・学年	介護福祉科1年						
授業概要	事例・実習を通して、個々になった介護過程の展開ができるようになる						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習: △	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		介護過程の意義を理解し、生活支援の課題や目標をとらえることができる	
	○	○		○		生活場面の身近な事例を通して、介護過程を理解する。	
	○	○		○		介護実践場面の事例を通して介護過程の実際を知る	
テキスト・教材 参考図書	最新介護福祉士養成講座9介護過程						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業オリエンテーション					
	2	実習 I Bでの情報収集の方法				課題提出	
	3	情報収集の振り返り				課題提出	
	4	情報収集の振り返り				課題提出	
	5	ボランティア実習の準備				課題提出	
	6	ボランティア実習				課題提出	
	7	ボランティア実習				課題提出	
	8	ボランティア実習				課題提出	
	9	ボランティア実習				課題提出	
	10	情報シートのまとめ				課題提出	
	11	アセスメントの視点				課題提出	
	12	アセスメントの視点				課題提出	
	13	フェイスシートの作成				課題提出	
	14	フェイスシートの作成				課題提出	
15	フェイスシートの作成				課題提出		
評価方法	(1)フェイスシート・状況シート・個別援助計画の作成・提出 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題	○	○		○		70%
	授業態度				○		30%
履修上の注意	出席が前後期合算で20回に満たない場合は、単位を与えない。						

科目名	介護実習 I B						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	80時間	担当者	豆田和也		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて介護福祉士として勤務		
対象学科・学年	介護福祉科 1年生						
授業概要	地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
			○			コミュニケーション技術を活用した利用者との関りが実践できる	
			○	○		利用者を中止としたチームケアや多職種協働の方法について学ぶことができる	
		○	○			学校で学んだ生活支援技術が応用されている場面を見学し根拠を理解できる。	
		○		○		多角的に利用者の情報収集を行い、利用者理解を深めることができる	
			○			計画的に実習の課題に取り組むことができる。	
テキスト・教材 参考図書	実習要項・記録						
授業計画	日数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	利用者の名前を覚え、1日の流れを知る				日々の実習記録の記載	
	2	職員や利用者との関りを通して、利用者の特徴を理解する				日々の実習記録の記載	
	3	利用者自ら積極的にコミュニケーションを図ることができる				日々の実習記録の記載	
	4	利用者の思いを引き出すためにコミュニケーションを実践する				日々の実習記録の記載	
	5	1週間の学びや職員への質問を通して施設の概要を理解する				日々の実習記録の記載・プロセスレコードの記載	
	6	利用者の思いを引き出すためにコミュニケーションを実践する				日々の実習記録の記載	
	7	利用者とのコミュニケーションから情報収集を行う				日々の実習記録の記載	
	8	他専門職から得られる情報を収集し情報シートを仕上げる				日々の実習記録の記載	
	9	印象に残った関りをプロセスレコードに記載				日々の実習記録の記載	
	10	最終カンファレンスを開催し、自身の振り返りを行う				日々の実習記録の記載 カンファレンスレポート提出	
	11						
12							
評価方法	実習要項にある評価表について下記の尺度で評価。A自分で行動できる B一度指導されれば、行動することができる Cその都度指導されれば行動できる D再三にわたり指導されても行動できない。問題行動危険行為がある。 施設評価80% 担当教員評価20% 総合評価がDの場合は再実習						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	施設評価		○	○	○		80%
	担当教員評価		○	○	○		20%
履修上の注意	実習は100%の出席のみ評価の対象となる。						

科目名	人間関係とコミュニケーション(後期/通年)						
科目名(英)	Human Relation and Communication						
単位数	4	時間数	60	担当者	濱中美紀		
実施年度	2022年度	実施時期	(後期/通年)	担当者実務経験	NPO法人にてボランティア支援		
対象学科・学年	介護福祉科 1年生						
授業概要	対人援助関係の形成の基礎となる人間関係とコミュニケーション、さらに介護実践に必要なチームマネジメントの考え方と取り組みを学ぶ。介護現場の中核として存在する介護福祉士の専門性、またその役割を認識し、その実践に必要な知識と姿勢を体得していく。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		人間の多面的な理解を基礎にしたコミュニケーションの基礎を理解する	
	○	○		○		専門職としての意識を高め、専門職として求められるコミュニケーションスキルを習得する	
	○	○		○		その場に応じた自身の役割を認識し、動くことができる。	
テキスト・教材 参考図書	『最新 介護福祉士養成講座1 人間の理解』中央法規						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	ガイダンス				理解度の確認	
	2	専門職とコミュニケーションについて				講義	
	3	専門職とコミュニケーションについて				講義	
	4	コミュニケーションにおける対象者理解				講義・グループワーク	
	5	コミュニケーションにおける対象者理解				講義・グループワーク	
	6	集団とコミュニケーションについて				講義・グループワーク	
	7	集団とコミュニケーションについて				講義・グループワーク	
	8	集団とコミュニケーションについて				講義・グループワーク	
	9	多職種連携とコミュニケーションについて				講義・グループワーク・事例検討	
	10	多職種連携とコミュニケーションについて				講義・グループワーク・事例検討	
	11	多職種連携とコミュニケーションについて				講義・グループワーク・事例検討	
	12	多職種連携とコミュニケーションについて				講義・グループワーク・事例検討	
	13	コミュニケーション演習				講義・演習	
	14	コミュニケーション演習				講義・演習	
	15	まとめ				講義	
評価方法	①授業への参加度、理解度②出席率③定期試験で評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				50%
	参加度・理解度	◎	◎		◎		40%
	出席				◎		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	社会の理解						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60	担当者	伊東良輔		
実施年度	2022年度	実施時期	通年/後期	担当者実務経験	介護実習普及センター職員として勤務		
対象学科・学年	介護福祉科 1年						
授業概要	介護福祉士の役割を理解し、他者へ説明することができる 介護保険制度、障がい者支援制度の利用手続きとサービスを説明できる。 その他の社会保障制度の概要について説明できる。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					介護福祉士として福祉を学ぶ意義を自らの言葉で説明することができる。	
		○				社会福祉に関する基礎的知識を身に付け、実践現場で活躍できるようになる。	
				○		社会人として必要な態度や言葉遣いを意識できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	社会の理解 中央法規出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	①介護保険制度にかかわる組織とその役割					
	2	①介護保険制度のゆくえ					
	3	①障がい者の自立					
	4	①障がい者自立支援制度創設の目的と動向					
	5	①障がい者自立支援制度のしくみ(1)					
	6	①障がい者自立支援制度のしくみ(2)					
	7	①障がい者自立支援制度にかかわる組織と役割(1)					
	8	①障がい者自立支援制度にかかわる組織と役割(2)					
	9	①障がい者福祉施策のゆくえ					
	10	①人々の人権を擁護する制度(1)					
	11	①人々の人権を擁護する制度(2)					
	12	①保健医療にかかわる諸施策					
	13	①医療にかかわる法と諸施策					
	14	①生活を支える諸制度のあらまし					
	15	①高齢者・障がい者の住生活を支援する制度					
評価方法	授業参加態度、期末試験の結果から総合的に理解度を評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				50%
	講義参加				◎		50%
履修上の注意							

科目名	介護概論(後期/通年)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	内山 拓也		
実施年度	2022年度	実施時期	後期/通年	担当者実務経験	高齢者施設勤務13年		
対象学科・学年	介護福祉科 1年生						
授業概要	介護福祉の専門性と倫理を理解する。ICFの視点にもとづくアセスメントを理解し、エンパワメントの観点から個々の状態に応じた自立を支援するための環境整備や介護予防、リハビリテーション等の意義や方法について理解し、習得する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					介護福祉士の倫理綱領を理解する。	
	○					自立支援とは何かを理解し、ICFの考え方を理解する。	
		○				自立支援とリハビリテーションについて理解する。	
		○				自立支援と介護予防について理解する。	
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版 介護福祉士養成講座 3 -介護の基本 I 介護福祉士国試ナビ						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	介護福祉士の倫理 介護実践における倫理			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
	2	介護福祉士の倫理 介護福祉士会倫理綱領			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
	3	介護福祉士の倫理 介護福祉士会倫理綱領			授業内容に係わる確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	4	利用者の尊厳を保持した倫理的介護実践			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
	5	自立支援の考え方 自立支援とは？			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
	6	自立支援の考え方 自立支援とは？②			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
	7	ICFの考え方			授業内容に係わる確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	8	介護におけるICFのとらえ方			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
	9	自立支援とリハビリテーション			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
	10	リハビリテーションとは			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
	11	リハビリテーションにおける介護福祉士の役割			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
	12	自立支援と介護予防-介護予防の概要			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
	13	高齢者の身体特性と介護予防-介護予防の実際			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
	14	介護予防における介護福祉士の役割			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
15	後期振り返り			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと			
評価方法	(1)宿題、レポートを数回実施する。(2)定期試験の(筆記)を実施する。(3)グループワーク実施時の参加状況以上を下記の観点・割合で評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト	◎	◎				5%
	宿題・レポート	○	◎		◎		5%
発表・作品				◎		10%	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	介護福祉各論Ⅰ（後期/通年）						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	吉水 美穂		
実施年度	2022年度	実施時期	後期/通年	担当者実務経験	特別養護老人ホームにて介護福祉士として勤務		
対象学科・学年	介護福祉科 1年生						
授業概要	介護の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解して、介護福祉の専門職としての能力と態度を学習する。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		介護福祉を必要とする人の背景を理解し利用者へ何が出来るかイメージできる。	
	○	○		○		障害者のためのサービスについて説明できる	
	○	○		○		高齢者のためのサービスについて説明できる	
	○	○		○		地域の社会資源について説明できる	
	○	○		○		介護福祉士の役割についてイメージできる	
テキスト・教材 参考図書	中央法規 最新介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	16	障害者のためのフォーマルサービス					
	17	障害者のためのフォーマルサービス					
	18	費用負担による区分					
	19	費用負担による区分					
	20	フォーマルサービスとインフォーマルサービスの関係					
	21	インフォーマルサービスの種類と提供者					
	22	生活を支えるインフォーマルサービスとは					
	23	生活を支えるインフォーマルサービスとは					
	24	地域連携の意義と目的。機関の理解					
	25	地域連携の意義と目的。機関の理解					
	26	利用者を取り巻く地域連携の実際				地域で活躍する介護福祉士さんからの講演	
	27	利用者を取り巻く地域連携の実際					
	28	事例検討 利用者が地域で過ごすために					
29	事例検討 利用者が地域で過ごすために						
30	試験対策						
評価方法	中央法規 介護の基本Ⅱ 見て覚える介護福祉士国試ナビ						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				100%
履修上の注意	出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	生活支援技術・基本 I (後期/通年)						
科目名(英)	Life support technology Basic I						
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	案納/吉水/平山/豆田		
実施年度	2022年度	実施時期	後期/通年	担当者実務経験	NS(病院)/CW(特養)/CW(老健)/CW(病院)		
対象学科・学年	介護福祉科1年						
授業概要	尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				生活を支えるということがどのようなことかを説明することができる。	
	○	○				対象者に必要な支援・援助の方法を選択でき、介助することができる。	
テキスト・教材 参考図書	最新 介護福祉士養成講座 6. 生活支援技術 I 中央法規 最新 介護福祉士養成講座 7. 生活支援技術 II 中央法規 見て覚える! 介護福祉士国試ナビ2019 中央法規						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	31	入浴・清潔保持(吉水)清潔保持の基本			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)		
	32	入浴・清潔保持(吉水)清拭の目的と方法			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)		
	33	入浴・清潔保持(吉水)入浴の目的と方法と留意事項			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)		
	34	入浴・清潔保持(吉水)演習 清拭			授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(2時間)		
	35	入浴・清潔保持(吉水)演習 清拭			授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(2時間)		
	36	入浴・清潔保持(吉水)演習 機械浴・一般浴			授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(2時間)		
	37	足浴(豆田)/部分入浴の基礎的理解			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)		
	38	足浴(豆田)演習			授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(2時間)		
	39	足浴(豆田)演習			授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(2時間)		
	40	自立に向けた排泄の介護(平山)			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)		
	41	排尿障害、排便障害、さまざまな介助(平山)			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)		
	42	排泄介助(平山)P-wc演習			授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(2時間)		
	43	排泄介助(平山)P-wc演習			授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(2時間)		
	44	排泄介助(平山)おむつ演習			授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(2時間)		
45	排泄介助(平山)おむつ演習			授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(2時間)			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)演習後演習記録の提出をする。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				90%
	小テスト						
	宿題・レポート 発表・作品		◎	○	○		10%
履修上の注意	出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	介護総合演習 I (後期/通年)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	豆田和也		
実施年度	2022年度	実施時期	後期/通年	担当者実務経験	病院にて介護福祉士として勤務		
対象学科・学年	介護福祉科 1年生						
授業概要	授業の中で介護過程の展開方法を理解したうえで、実習事例体験を通して、個々に合った介護過程の展開ができるようになる。さらに、実習後個別のケースに対して事例研究を行い、事例検討の方法を習得する。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	目標		
			○		実技試験に4回目までに合格できる		
				○	すべてに出席できる		
	○	○			実習中及び前後の提出物が期限通りに提出できる		
				○	授業に対して能動的に取り組むことができる		
テキスト・教材 参考図書	中央法規最新介護福祉士養成講座10介護総合演習・介護実習						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	16	実習先発表、自己紹介表記入					
	17	調べ学習					
	18	目標設定					
	19	日誌下書き					
	20	日誌清書					
	21	実習内容					
	22	実習の決まりごと確認					
	23	プロセスレコード、カンファレンスレポート記入方法					
	24	実習前審査リハーサル					
	25	事前挨拶／実習前審査					
	26	事前挨拶／実習前審査					
	27	お礼状／申し送り簿記入					
	28	報告会準備					
29	実習報告会						
30	実習報告会						
評価方法	1、実技試験に4回目までに合格できる 2、実習関係書類の提出期限が守られること 3、授業に出席していること 4、授業で説明されたことを理解し、自ら考え、主体的に取り組んでいく姿勢がある 以上4つの視点で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	宿題・レポート	○	○				20%
	実技試験			◎	◎		80%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	発達と老化の理解(後期/通年)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	林田朋子		
実施年度	2022年度	実施時期	後期/通年	担当者実務経験			
対象学科・学年	介護福祉科 1年						
授業概要	介護福祉士は介護の中核を担う存在となり、複雑化・多様化・高度化していく介護ニーズに対応していく必要がある。この授業では、介護を必要とする人の理解を深めるため人間の成長と発達の基礎的理解を学び、発達と老化の観点から老化の心理や身体的変化、特徴の基礎的な知識を身につけ、人生のあらゆる段階、特に高齢者の生活支援するための知識を学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法: ○ その他: △		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					成長・発達の考え方、原則、影響する要因、発達段階と発達課題の基礎知識を習得できる。	
	○					成長・発達の観点から、老化にともなう心理や身体的機能の変化及び特徴に関する基礎的な知識を習得できる。	
	○					老化にともなう身体的・心理的・社会的変化とそれらがどのように生活に影響を与えるかを説明できる。	
	○					高齢者の疾病と生活への影響、健康の維持・増進、性格を支援するための基礎的な知識を習得できる。	
	○					習得した知識であらゆる段階、特に老年期にある人を理解し、尊厳の保持などを踏まえ生活支援ができるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>中央法規出版 介護福祉士養成講座12-発達と老化の理解</li> <li>中央法規出版 見て覚える!介護福祉士国試ナビ</li> </ul>						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	老化にともなうところからの変化と生活—心理的な変化と生活への影響 認知・知覚・機能の変化と心理的影響 パーソナリティの変化				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	老化にともなうところからの変化と生活—心理的な変化と生活への影響 老化と動機づけ・適応				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	老化にともなうところからの変化と生活—社会的な変化と生活への影響 社会の生活上の課題 高齢者の社会的活動の現状と課題				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	高齢者と健康 健康長寿の健康 高齢者の症状・疾患の特徴				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	高齢者と健康 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 骨格系・筋系				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	高齢者と健康 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 脳・神経系 皮膚・感覚器系				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	高齢者と健康 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 循環器系				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	高齢者と健康 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 呼吸器系 消化器系				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	高齢者と健康 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 腎・泌尿器系 内分泌・代謝系				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	高齢者と健康 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 歯・口腔疾患 悪性新生物				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	高齢者と健康 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 感染症 精神疾患				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	高齢者と健康 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 その他 熱中症・脱水...				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	高齢者と健康 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 保健医療職との連携				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	後期授業のふり返り				授業時配布プリントの生理をしておくこと	
15	後期定期試験対策 国試過去問 模擬問題等				授業時配布プリントの生理をしておくこと		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業プリントの確認を実施する。(3)グループワーク・発表を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	プリント確認	○			◎		10%
	宿題・出席	○	○		○		5%
発表	○	○		◎		5%	
履修上の注意	出席が20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	認知症の理解(後期/通年)						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	豆田和也		
実施年度	2022年度	実施時期	後期/通年	担当者実務経験	病院にて介護福祉士として勤務		
対象学科・学年	介護福祉科1年生						
授業概要	認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	目標		
	○	○		○	認知症の定義・全体像について理解し説明できる		
	○	○		○	認知症の症状・原因疾患について理解し鑑別することができる		
	○	○		○	認知症の人の現状と課題について知り、考えを述べることができる		
	○	○		○	認知症ケアの実際について具体的な方法と留意点について言うことができる		
	○	○		○	認知症の人の地域生活支援の具体的な方法について述べるができる		
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版 介護福祉士養成講座13 認知症の理解						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	16	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解 前期内容の振り返り			小テスト(前期の内容)を実施するので勉強しておくこと		
	17	認知症を取り巻く状況			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	18	認知症ケアの理念と視点・認知症当事者の視点から考える			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	19	認知症ケアの実際① パーソンセンタードケア			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	20	認知症ケアの実際② アセスメントの方法の実際			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	21	認知症の人への様々なアプローチ①			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	22	認知症の人への様々なアプローチ②			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	23	認知症の人の生活環境①			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	24	認知症の人の生活環境②			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	25	介護者支援 家族の支援			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	26	認知症の人の地域生活支援 新オレンジプラン			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	27	認知症の人の地域生活支援 地域連携体系			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	28	認知症の人の地域生活支援 事例検討会			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
29	認知症の人の地域生活支援 事例検討会			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと			
30	認知症ケアの実際のまとめ			後期まとめテストを実施するので勉強しておくこと			
評価方法	(1)授業の中で小テストを毎回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				85%
	小テスト	◎	◎				10%
	出席率				◎		5%
履修上の注意	出席が前後期合算で20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	障害の理解(後期/通年)						
科目名(英)	Understanding of Disorders						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	田中優子		
実施年度	2022年度	実施時期	後期/通年	担当者実務経験	病院で看護師として勤務		
対象学科・学年	介護福祉科1年						
授業概要	障害の概念や障害者福祉の歴史を踏まえ、障害者支援の基礎となる関係法規や障害者福祉の理念を理解する。障害(身体・知的・精神・発達障害・難病等)の特性について理解し生活上の支援の在り方を学ぶ。障害者やその家族に対する関わり・支援の基礎を理解する。地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。						
授業形式	講義	○	演習:	△	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					障害者福祉に関する制度や専門用語、公的支援や疾患の概要を理解する	
		○				障害者福祉制度と介護保険制度の共通点と相違点について理解する	
		○				障害別の基礎的理解と特性に応じた支援について理解する	
		○				障害者への社会資源や家族へのサポートのありかたについて理解する	
				○		障害者の個別の事例について考え支援の在り方について意見を述べる事が出来る	
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版 介護福祉士養成講座14 - 障害の理解 ・中央法規出版 見て覚える!介護福祉士国試ナビ2017						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	内部障害	心臓機能障害、呼吸機能障害			教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	2	内部障害	腎臓機能障害、膀胱・直腸機能障害			教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	3	内部障害	小腸機能障害、免疫機能障害			教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	4	内部障害	肝臓機能障害			教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	5	重症心身障害			教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)		
	6	まとめ			教科書・プリントの当該範囲を読んでおく(1時間)		
	7	確認テスト			教科書・プリントの当該範囲を読んでおく(1時間)		
	8	第3章 障害別の基礎的理解と支援Ⅱ 知的障害			配布プリントとミニテストを復習すること(1時間)		
	9	精神障害、高次脳機能障害			教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)		
	10	発達障害、難病			教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)		
	11	まとめ			教科書・プリントの当該範囲を読んでおく(1時間)		
	12	確認テスト			教科書・プリントの当該範囲を読んでおく(1時間)		
	13	現場からのメッセージ			教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)		
	14	現場からのメッセージ			教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)		
15	後期総括			教科書・ミニテストを復習すること(1時間)			
評価方法	(1) 定期テスト(筆記)を実施する。 評価はS(90点以上) A(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(59点以下)						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎		○		80%
小テスト	◎	◎		○		20%	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	からだのしくみ I (後期/通年)						
科目名(英)	Body structure and function						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	山下 和美		
実施年度	2022年度	実施時期	通年(後期)	担当者実務経験	看護師として医療機関にて勤務		
対象学科・学年	介護福祉科 1年						
授業概要	介護現場の中核として存在する介護福祉士の専門性のひとつに、利用者個々人の心身の状態に応じたケアを行うことが挙げられる。この授業では、個別ケアの中核をなす『介護過程(総論・各論)』において、身体構造・心身機能をアセスメントするために必要な医学知識を学ぶ。また、『障害の理解』『生活支援技術(基本・応用)』に関連するところやからだのしくみを理解して、全人的なケアを提供する際に必要な知識の習得を目指す。						
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	目標		
	○				生活支援技術の根拠となる人体の構造・機能と、関連した疾患や障害の概要を説明することができる。		
	○				疾患・障害に対応するために、医療職との連携・協力の重要性を説明することができる。		
	○				介護サービスの提供における安全への留意点を説明することができる。		
		○			利用者の様子から、からだの状態変化に気づく観察の視点へと応用することができる。		
			○	利用者のもつ身体的、心理的、社会的側面について配慮し、ケアの際に実践することができる。			
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中央法規出版 最新介護福祉士養成講座11 - ころとからだのしくみ</li> <li>・中央法規出版 見て覚える！介護福祉士国試ナビ2020</li> </ul>						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	16	関連する役割、および薬の知識				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	17	移動に関連したところとからだのしくみ ①移動の意義・目的とからだのしくみ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	18	移動に関連したところとからだのしくみ ②心身の機能低下が移動に及ぼす影響				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	19	移動に関連したところとからだのしくみ ③変化の気づきと対応				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	20	身じたくに関連したところとからだのしくみ ①身じたくの意義・目的				<ul style="list-style-type: none"> <li>・前単元の復習をしておく(確認テスト)</li> <li>・教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと</li> </ul>	
	21	身じたくに関連したところとからだのしくみ ②からだのしくみ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	22	身じたくに関連したところとからだのしくみ ③心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	23	食事に関連したところとからだのしくみ ①食事の意義・目的とからだのしくみ				<ul style="list-style-type: none"> <li>・前単元の復習をしておく(確認テスト)</li> <li>・教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと</li> </ul>	
	24	食事に関連したところとからだのしくみ ②心身の機能低下が食事に及ぼす影響				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	25	食事に関連したところとからだのしくみ ③変化の気づきと対応				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	26	食事に関連したところとからだのしくみ ④変化の気づきと対応				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	27	入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ ①入浴・清潔保持の意義・目的				<ul style="list-style-type: none"> <li>・前単元の復習をしておく(確認テスト)</li> <li>・教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと</li> </ul>	
	28	入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ ②からだのしくみ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
29	入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ ③心身の機能低下が及ぼす影響				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
30	学習のまとめと後期試験対策				前単元の復習をしておく(確認テスト)		
評価方法	後期授業の終了後に定期試験(筆記)を実施する。総合評価の際には以下の評価を加えて評価する。 (1)授業の中で確認テストを4回実施する。 (2)宿題・レポートを数回実施する。 上記の(1)(2)については下記の観点・割合で評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				90%
	確認テスト	◎	○				5%
宿題・レポート	○	◎		○		5%	
履修上の注意	欠席が11回になった場合、定期試験の受験資格を与えない。						